

① 研究課題名：

日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会：本邦における卵巣癌（上皮性腫瘍）に対する妊孕性温存治療に関する実態調査

② 研究の目的：

15歳から39歳までの思春期及び若年成人世代はAYA世代と呼ばれます。AYA世代における卵巣癌は、AYA世代の他のがんと比較して生存率は高く、がん治療後の生活の質向上をも考慮した治療の選択が必要になっています。また、卵巣癌は世代によって組織分類が異なることが分かっています。そのため、世代の特徴に合わせた診断や治療法の選択が重要とされています。しかし、日本における妊娠可能性（妊孕性）を温存させる治療の施行状況、手術適応、長期予後、妊娠に至る経過、妊娠が成立した症例の転帰等に関しては明らかになっていません。本研究は、AYA世代における卵巣癌の治療前情報、治療方法、妊孕性温存治療、治療後妊娠転帰等について、現状を把握することを目的としています。

③ 研究期間：西暦 2019年 2月 ～ 2020年 3月 31日

④ 研究代表者及び研究実施施設一覧

研究代表者：聖マリアンナ医科大学産婦人科学 教授 鈴木直

研究実施施設：新潟大学、東海大学、千葉大学、筑波大学、名古屋大学等の
全国の日本産科婦人科学会専攻医指導施設

⑤ 研究の対象：

2009年1月から2013年12月までの間にAYA世代（15～39歳）で、卵巣癌（上皮性腫瘍）に対して妊孕性を温存した治療を受けられた方

⑥ 調査項目：

- ・卵巣癌の初回治療（手術）前情報：手術時の年齢、結婚歴、妊娠既往、月経の有無、月経異常の有無、
挙児希望の有無、腫瘍マーカー（CA125値）、卵巣予備能検査施行の有無など
- ・卵巣癌に対する治療方法：手術日、手術方法、組織型、術後化学療法の有無、治療後の情報（月経異常の有無、月経開始までの期間、挙児希望の有無、卵巣予備能検査施行の有無など）
- ・治療後の妊娠に関する情報：術後の不妊期間、結婚歴、月経の有無、月経異常の有無、月経開始までの期間、挙児希望の有無、妊娠の有無（有りの場合：妊娠判定日、不妊治療の有無及び方法、妊娠時合併症の有無、妊娠の転帰、分娩形式、分娩週数）
- ・再発の有無に関する情報：再発の有無（有りの場合：確認日、治療内容、妊孕性温存治療の有無、再発治療後妊娠の有無）、転帰

⑦ 研究の方法：

研究担当医師が、対象となる方の診療録より「⑥調査項目」の情報を調査し、「症例調査票」に記入します。得られた情報は、聖マリアンナ医科大学産婦人科学へ提供され、集計・解析されます。

⑧ 研究成果の公開

学会発表・論文での公表を予定しています。

⑨ 個人情報の保護

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番し、その番号を用いて症例調査票を作成します。このため、個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない（あなたのデータを使ってほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。

⑩ 利益相反

本研究は、日本産婦人科学会および聖マリアンナ医科大学より研究資金を得て実施されます。

⑪ 問い合わせ先

研究事務局	所属	研究責任者
名古屋市立東部医療センター 住所：〒464-8547 名古屋市千種区若水1丁目2番23号	産婦人科	神谷 将臣 TEL：052-721-7171（代表）